

# アミュニア

学苑会中央執行委員会  
委員長 小島保雄  
(内修院第11号館入口)  
1970.10.15.

# 研連総会、成功に終わる！

<人	事	>
委員長	福富 健二郎(文研2)	
副会長	川部 洋二(政研1)	
事務長	馬場 香雄(工研1)	
副会長	澁田 友子(日研3)	
会計部長	口永 香己(營研2)	
副会長	中山 俊(政研1)	
情報宣部長	鈴木 博司(地政研2)	
副会長	砂川 伸(日研2)	

中教審大学粉碎！  
学館自主管理貴重！  
八體制粉碎！

昨日、十四日七時四十五分、三〇番教室で行なわれた、研連総会は、正午の多款スモット委員長五  
時、吉田健二郎君とする新執行部が選出され、新たな方針案が採決された。出席代議員21名へ全代議  
30名)、オブザーバー約10名と総会は始まり、途中、「研・日本史研・文研・マル研からの合同  
申請が提出され、発言权・反対権・保護権・棄権の可否が決された。その内容は、過去一貫して反側  
連活動を行なってきた、社説・うたう会を中心とするサークルへの科序声明——四日一一日行な  
われた、デッチャアゲラ学苑会(略)「サークル・自治会紀念」に参加すると同時に、デッチャアゲラ  
花金及び一切承認していながら研連の総会に参加するという矛盾の糾弾と共に、十月五日にデッ  
アチャアゲラ会をもめたる黒崎健天が自己批判書を出しに現在、どういう立場であるのが反側弾した  
——五しつつ、一ヶ月後の十一月十四日に全サークルは、態度声明を提出し、もしく今迄全く  
文化しない頃には、研連の所名するといふものがあった。その後、財政報告・方針案・人事案の  
一筋体調に参り、賛成13・反対2(社説・うたう会)・保留6・棄権2と、これも可決された。  
昨年度、全く「研連」はその性能を果してしまった。「サークル解体説」を黒國に叫びて  
て、研連の總製作に「解体」させていった、前執行部の責任は問われなければならぬ。しか  
し一方、そのことの実験として「サークル」も、自己批判しなければならぬのである。さう  
いう困難を前にしながら、幾つかのサークルにより、研連再建の準備が進のうとしていることを  
明記しておく。

「サークル解体説」の誤まりは、根本的には理念と現実とにさすがにこじれた結果である。  
両体調のものが誤りの根柢ではないが、走向し「サークル」の本を止揚すべきものと、現実にて  
あこせめてしまい、「解体」していったのである。

個體連会は、新執行部成立後、「学館解放」に向けて斗つていくことと全サークルと研連は、  
「二部設立系実行委員会」と全サークルと承認したことと報告しておいた。

全ての學反議員! サークル員頭君! 研連は君達の期待に、立派にこたえてくれるであろう。ま  
た、学苑会も、研連・サークルと全面的バックアップをしていきたいと考えている。